

皆さんこんにちは。私は、埼玉県共助仕掛人の森田圭子と申します。

本日は、「地域活動へのいざない」ということで、少しお話をさせていただきます。

では資料を共有させていただきます。

本日はですね、埼玉県南西部地域振興センターの令和4年度の新しい輪づくり事業として、30～40分ですかね少し短い間ですけれども、私のこれまでの経験なんかも踏まえてですね、いろんな地域活動があるよっていうお話をさせていただきたいと思っています。

まずですけれども、地域活動と言えば、皆さんどんなものを思い浮かべられるでしょうか。

地域活動っていうとですね、自治会とか町内会とか、子供会、老人会、PTAとかですね、あとはそれとは違ってボランティア活動とか、私が主にずっとNPOなどでやってきた非営利活動の市民活動とかもそうですし、地域を見てみると、ボーイスカウトとかスポーツ少年団なんかも、たくさんの地域の人が参加されて動かしていますよね。子供たちも参加していますけれども、それ以外に、それらはわりと1年とか長い継続されている活動ですけれども、例えば1年に1回のお祭りとかですねその時だけにちょっと集まって実行委員やりましょうとか、花いっぱい運動挨拶運動とか、もしかしたら、よく駅の前で募金活動をしている、年末になったりするとありますけれども、そういうものも、地域活動なのかしらとか、地域といえば、地域活動と言えばいろんなものが、よく考えてみると身の回りにあるということをお思い浮かべられるんじゃないかなあというふうに思います。

地域活動っていうのは何なんですかねということで、私がですね一番しっくりする地域活動の定義というのはですね、いろいろあるんです。いろいろあるんですよ。

ホームページを見ると、誰か他の人のためにやると、というようなことだったりして、いろいろ区別していたりするものもあります。市民活動とかボランティア活動とかいろんなものと区別しているものもありますけれども、重なりがたくさんあるんですね。

それで私が一番こうしっくりしている、地域活動って何だろうっていう定義は、新谷和代さんという方

が、「地域活動のすすめ」という本に書いていらっしゃる、「地域コミュニティの中で住民が主体的に行う活動、そして地域というキーワードで繋がる多岐にわたる活動」、この言葉が私にはしっくりくるなというふうに思っています。

皆さんも地域活動にかかわられたことがありますか、地域で行われているいろんな活動、多くの方が、そう言われてみると、私が関わってる今のこの活動はそうかしらと思ったり、案外自分ではやってないつもりでも、地域の、今日はごみ集める日ですよ地域のみんなですってというような、1日限りだけど参加したりと、あれもまた地域活動だったりしますよね。

なので何らかの形で地域活動には参加されたことがあるという方が多いのではないのでしょうか。

で、地域活動、その入り方はいろいろです。

回り当番で、もうピッ、今回は私がやらなきゃいけなくなっちゃう。

次の順番で私に回ってきたっていう当番で入られた方もあれば、もしかしたらですね、ご自身が何かの課題解決のため、或いは、自分がその当事者だったとか、或いは家族が当事者とか。

そういうようなことがあるかもしれないし、自分がかつてそうだったので、そういう人のために役に立ちたいと思って何かそういうことに関わったかは、自分の社会的な課題意識、今とっても虐待が増えている、そういう世の中を、ちょっと私の力でできることはなんだろう。

そして振り向くと、こういう活動があったとかですね、そういうようなことで参加されていらっしゃる方もあるんじゃないのでしょうか。

或いはその学校にずっとお世話になっていた、私もだけど子供もお世話になっていたので、終わった後も何となくこう花壇の整備には関わっていますとか、読み聞かせの活動には関わっているですとか、そういうちょっとしたことでできることならということで、何かの形で役に立ちたいと思ったり。

それからちょっと公民館のね、学習に少し興味があったので行ってみた、そしたらその仲間たちが少しか参加してる活動に、1回きりじゃ、せっかく一緒に学んだのに、活動に参加しないみたいな学習から繋がった場合もあるし、何となく、今日はちょっと、すごくやる気があるわけじゃないけど行っ

てみた、頼まれた、いや本当はやりたかった。ちょっと興味があった、やむにやまれず、これやるしかないということだったり、そんなにやる気はないけど仕方なくとか、気持ちとしては半々だなとかですね。

気持ちの上でいろいろあると思います。

そんな、地域活動のいろいろな入り方ですけども、私の自己紹介も兼ねてですね、私が今、やっている、子育て支援のNPO、学校子育てネットワークという和光市で、地域の人たちと一緒に始めた活動、それから、そういった活動をずっとしているうちに、さいたまNPOセンターというそういう活動をサポートする、中間支援っていいですけども、そういう活動にも関わるようになって、その中で、家庭訪問型子育て支援ってということで、場所で待っているだけじゃなくて孤立している家族のところへ届けようって訪問型の子育て支援の活動なんかを今、いろいろな代表だったり、理事だったりというような形で、いつの間にかたくさん関わっているようになってるんですけども、そんな活動も、実は私もですね、地域活動から始まったんですという話を少しね、させていただければ、と思っています。

私の今に繋がるこの、いろんな非営利活動であったり私が取り組んでいる市民活動はですね、実は一番最初は自分の子供が小さかったとき、夫の転勤先に付いて行ったその大阪の豊中市の幼稚園のPTAでした。

みんなが何かにかかわらなきゃいけないっていうPTAで、私は小さい下の子もいたし、お部屋があって、子連れで行ってもいいよって言われていた通信づくりの担当になったんですけども、あんまりねそういうことに関わるって大変だし、子連れで大変というふうに思っていましたけれども、そこにね先輩がいたんですね、もう2人目のお子さんを育てていて、ご自身は、編集の校正者としてバリバリ仕事されている、お家で仕事されてるような、友達だったんですけど、その人はもう余りにも自然にですね、バリバリ通信やって、とっても楽しそうに、じゃ作ろうよっていう形で、何がやりたい何がやりたいっていうふうに、通信のね、みんなに知らせたいこと何があるみたいな形で、通信を作る人だったんですね。私はその勢いにすごくびっくりして、みんながちょっと自分の時間を削って、我が子が通っている幼稚園だから、しょうがなくけどそんなことができるわけでもないし、ちょっと控え目に目立たないようにやろうと思っていたら、その彼女が、どうせやるならやりたいことをしたらいいんや、したらええと、私にそんなおっかなびっくりやんなくても、私たちがやってるのはプロではないんだし、やりたいことをやりま

しょうよ、というふうに私たちをこう、鼓舞というか励ましてくれたんですね。

プロじゃないし私なんかなんて思っていた私にとってはとってもその彼女の姿勢は、衝撃的で、そんなふうにしていいのかというとても刺激を受けました。

地域活動はお金にはならない仕事だし、自分の生活にあまり響かないように、っていうすごく消極的な気持ち、地域活動に対してPTA活動みたいなものに対しては、そういう気持ちを強く持っていましたし、世の中でもPTA面倒くさいよねみたいな話があったし、ご多分に漏れず私もその当時そう思っていたんですけども、その中に楽しみを見いだした彼女の「どうせやるなら楽しくやろう」という言葉は、とても私の価値感を変えた一言でした。

そのあとですね、その前だから、その時にね、大阪って、東日本大震災の、翌年とかよく翌年ぐらいの、古い時代で、でもその時はやっぱりもうみんながみんなの地域を立て直すっていうことでみんなが力を合わせようっていう雰囲気も主義の中にすごく満ち満ちていって、私が子連れで、ちょっと子育てしながらの何かでこずっているようなことがあるとですね、大阪って土地がらもあるんですけど、よく声かけてくれたりというような、「大丈夫？」って、「大丈夫かい？」って、というような方が結構、私の思い出にすごく残っているような地域で、地域、地域だな、地域っていろいろ地域に助けてもらったり地域っていいなって思うようなことがあったのは、大阪のまちでの出来事が私の原点だというふうに思ってますけど、そこから辺からですね地域、地域活動に少し関心を持つようになりました。

その後ですね、転職を終えて、埼玉県に戻ってきたんですけども、フルタイムで働くのはまだちょっと先っていうふうに思っていたし、まあお金がかかるので子育ては、いずれ仕事をしなければと思ってましたけれども、でもまだ、そんな余裕がないころに、市のオルゴールっていう編集委員の募集があってそこに参加して、地域の取材をしたりとかですね。それから、何かやりたいこと、子供に向き合う、研修があってそこに参加してちょっとそういう活動、市民活動に参加したり、あと自分の地域、本当に引っ越して来たばかりで誰も知らない地域で、そのオルゴールに参加したら、オルゴールにも同じような方々がいて、そういう人たちと一緒に、何か子育てサロンっていう、何か子育てしてる人が来てもいいよっていうような場づくりを始めたりしたんですね。

その時には、ちょっとその、取材に行った先にそういうことをすでに埼玉県の他の地域でやってる人た

ちがいて、そういう人たちにとっても刺激を受けたんですね。

でも持ち出しはできないよねっていう時に、助成金とかそういう仕組みがあって、私たちの地域活動にもそういうことを、ボランティアでもいろいろこう経費がかかるものなので、助成金っていうものがあるんだよみたいなことも学んだりして、平成 11 年、2000 年、1999 年ぐらいが、大きく私が地域活動に関わるようになった時でした。

そして子育てネットは、そういうことをやるのにですね、やりたい活動はなかったんですもん、地域なので、地域のそういう出会った仲間たちと、いろいろこうどうしたもんか、隣の市の先進、新しくやっている先輩たちの話聞いたりして、団体を作ろうと、団体ってどうやって作ったらいいかわかんないけれども公民館登録をしたらですね、形はできるというところで登録からですね、そういう市民活動としての体をなしていったということがありました。

そんな活動をずっと続けてるうちに、子育てで、初めて私のように引っ越してきた人がそういうところに参加してきたりということではいろんな人と出会って、私たちがやっていることも、それなりに地域の中で意味があることになってっていう、私たちがやり始めたのを見て、他の人たちも初めてみたいな影響を受けて、何かを始められる方々も出てきたりするような中で、NPO を応援する活動とかいろんな市民活動を応援する活動とか、もうちょっと出ていく活動みたいなね、スタートに関わり始めたとか、というような経歴がある私ですので、地域活動っていうのが私にとって本当に自分の基礎、一番ベースのものだというふうに思っています。

あと、そういう自分の関心とか今の自分の課題っていうもの、当事者としての課題を中心に行っていた活動、自分から取り組んでいた活動と同時並行でですね、小学校の PTA 活動とかですね、それから中学校と高校の PTA 活動、これ、私はもう本当に全部何故かジャンケンでずっと負け続けて、ずっとなってましたけど、みんなからはやっぱり地域活動やってるからね、好きなのねみたいに言われましたけど、別に好きでもなくて、ジャンケン負けたから、うわー大変と思いながら最初やってましたけど、やってることがですね、すごくこう繋がっていく人も繋がるし、いろんな私の活動自体も繋がっていくと、というようなことを活動の中で感じたり、人脈が広がっていったりとかねそれが結局自分のやりたい活動に帰ってきたりとかですね、地域、地域ってやっぱり、いろんな資源がある人もいるし、いろんないろんな場所とかですね、本当に地域には宝の山というのを感じたのは、地域活動でたく

さんの方に出会ったり、たくさんの経験をさせてもらったことが大きいかなというふうに思っています。

で、どんな地域活動をしたかという、小学校の PTA、中学校、ここの PTA、それから地域の祭り、市民祭りの実行委員とかですね、それから自治会の餅つきのイベントの係りとか、あと子供が小さいときは、子供会の世話役をやって子供たちを引き連れてどっか行ったりとかですね。

なんか、クリスマス会をやったりとかですね、そういうようなことも私にとっては大事な、地域の子供たちと知り合う。子供の友達とも仲良くなれる。子供のお母さんのおばちゃんみたいな、あの地域で繋がる。

その繋がりは今も、今も、もう私は、その子供たちはとっくに大人ですけども、その地域での昔の繋がりは今も、私の大事な繋がり、ひょっとすると私がこれから助けてもらうこともあるかもしれない繋がりです。

同じようにスポーツ少年団のお茶当番とかですね、そういうようなこともですね、今でも繋がっている。

お母さん友達とかですね今となっては、介護のようなことがあるときの話を聞いてもらったり話を聞いたり、というような、とても大事な、私が生きていくための、本当に私の大事なネットワークですけども、そういったようなことが私の地域活動のとても大事な歴史かなと思っています。

そんな中でですね、そういう活動とともに NPO 法人とかをやっていたけれども、ここに書いてあるような、地域活動は時期が来たら終わる子供が小学校卒業したら終わるし、子供会も自治会も当番が終わったら終わると。

地域活動っていうのは、割り合いと役割が終わっていくこともあってですね、そういう意味では、大変だけど、1 年ぽっきりとかですね、今年だけとか、取り組みやすい部分もありましたけど、でも次から次にやっぱり次の役割が飛び込んでくるんですね。声がかかったりする。

私は一方で自分が地域の中で、子育てをしている人たちが孤立しているっていうことが、自分としてはすごく自分の課題でもあったし、よく周りを見渡してみると社会の課題でもあるというところから始めた NPO の活動、最初は法人格を取っていませんでしたけれども、そういったような活動に、の場

に、いつも新しい人たちが来続けていうことではですね、いずれ辞めてフルタイムで子供の教育費など稼がねばと思っていましたけれども、なかなかやめるきっかけが見えない、うんやめちゃってその活動が地域の中からなくなることについては、自分としてはちょっと忸怩(じくじ)たる思いもあったりしてですね。自分の人生、自分のライフステージ、どんなふうにか切り換えていくのかなあっていうのが見えないまま、どうしたらどうしようと思いつながらねやっていた時期がありました。

今となつては、それが今に繋がってるんですけど、その真ただ中にいた時はですね、あんまり見えなかった私の将来みたいな、辞めても、お金をちゃんと稼がなきゃっていうように、思ったりしてることもありましたね。

でも今は、これがちょっとした仕事になっていたり、私の社会的な役割になっていたりするっていう、今ですけども。でも、この活動も、地域活動があればこそ私の背景であると思います。

一番ですね、やっぱり地域活動のポイントはですね、やはりボランティアだってことですね、始まり、特に今までやってきたこと、すべてのことね PTA だって、地域祭りの実行委員だって、イベントのちょっとした係だってですね、ボランティアなんですね。

そこが大きな特徴だと思います。

なのでちょっとボランティアについて、考えてみたいと思います。

ボランティアっていうのは何なのか。

ボランティアっていうのはですね、ボランティア活動には四つの原則がありますよっていうのをよく言われます。

私はボランティアを、ボランティアなのか地域活動なのか、ボランティアと地域活動はちょっと違うよっていうふうに言われる本もあつたりしますが、私の活動の私の中ではそんなに違わない、いうふうに思っていて、特に最初はですねボランティアであることがとても多いというふうに思っています。

で、ボランティアの活動の性質というものがやはり地域活動の中にはすごくこう生きているというふうに思うので、このボランティアの特性について少し、ここで皆さんと、考えてみたいと思います。

これはですね、よくいろいろな、私が考えたわけではなくて、ボランティアの本とかですねそういったものには、出てきます。

これはですね、まずはボランティア。

自発性、主体性、自分がやりたいとか、自分からというのが、自分が主体的に関わっている、無理やりやらされていると、いうようなことではないということが、ボランティアの活動の四つの原則のうちの一つですよと、いうことがあります。

もしかするとですね、この部分が、地域活動とボランティアっていうものを少し分ける部分なのかもしれません。

さっき入り方いろいろってお話しましたが、地域活動の中には、最初からすごく主体性を持って、自発的に関わったわけじゃないって入り方があつちりますよね。

なので、この部分は特に、そういった入り方によっては、当てはまらないことがあるかもしれないというふうに思います。

ですが、やはり、何か地域活動に関わって長くやるとかそこに意味を生み出していく、というようなことにおいてはですね、最初は違っていても、やはり自発性とか自分が主体的に関わっていく意味を見いだすというプロセスが、自分にとってもとても大事なプロセスになってくると思いますので、この特徴もやはり、地域活動の中で大事な特徴だというふう思うところがあります。

そして次が、社会性と公益性という言葉で言われたりすることもありますけれども、これはですね社会の社会に貢献する活動だということだったり、社会の課題に取り組むような活動だったり、大きな課題であつちり、ちょっとした、まちを綺麗に、そのあたりの道端に落ちている落ち葉を片付けたりというようなこともですね、何か社会に貢献する、社会の問題を少し、自分の力で少し変えられるよ、

できるところからやっていくというような、社会性がある。

それからもちろんボランティアですから、無償性とか、そういうことは意味がとてもありますね。

そして四つ目がですね、創造性とか、開拓性とか先駆性と言われるようなものがあります。

これはですねやっぱり地域活動も地域の問題、ボランティアに関わるような問題、地域活動、地域にある、何かの、問題というのはですね、時代とともにこう変わっていくわけですね。

時代が変わっていくと 10 年前の課題はもう課題でなくなっていたり、逆に 10 年前は課題でなかったものが、今はとても課題だったり、というようなことがあるわけです。

経済のね、状況によってもですね、とつても職場が余る時代があったり、逆にとつても仕事する仕事を見つけるのが大変な時代が来たりとかですね、私たちの身の回りでも、ここ数年、このような問題もあたりとかですね、社会の中では新しい問題が次から次に出てきていますけれども、その時に、今の問題に関わる、何か、地域課題とか地域の活動をやっていこうっていう時には、それが新しい活動になっていくと、新規な活動になっていく。

また、無償で何かこうお金をかけてやるわけではない。なので、気軽にフットワーク軽く取り組むことができるとしたら、本当に先駆的なもの、開拓するもの、創造性なったりするものと、この四つがですねボランティアで行う活動の特色、性質であるというふうに言われています。

で、私たちがじゃあそういうボランティアに関わる、その動機、動機は何なんだろうかね、ということではですね、ちょっと古いんですけども、全社協がですね、ボランティアの実態調査をしたものがあります。

これねなかなか新しい調査がないので、かなり古いものになるんですけども、でも多分このあたりの感覚としては、そんなに違わないかなというところで、古いデータですがこれを皆さんと共有させていただきます。

見ていただくとですね、一番多いのは、ここ、ここですね、自分自身の関心や趣味の活動から自然に繋がった。

それから、社会にお世話になったことに対する恩返しをしたかった。

そして、地域や社会を改善する活動に関わりたかった。

それから、地域社会を知りたかった。

実際に私たちは、地域や社会の中で生きているけれども、何か活動とか何かそういう場がないと、自分の家庭、家庭も小さい社会といいますけれども、その地域社会、繋がるということがですね、なかなかなかったりするわけですね。

こういう意味では、やはり自分の思い、自分の動機みたいなものが、こういう動機だと、いうことをね皆さんに見てもらおうと、何となくわかるなあ、ていうところがあるんじゃないかなあというふうに思います。

そして、実際にボランティアをやってみて、どんなことが獲られたでしょうかと。

というようなこともこれ地域活動と置き換えることもできるかと思いますけれども、地域活動で得られたことってというのは自分にとってすごくこう、よかったなと思うようなことだったりするんじゃないかと思いますけど。

ここ、黒塗りの数字のところが一番の数字というところですね、ここは男性全体のところと、男性女性、あとは世代別に分けられています。

そうするとですね、全体で一番多いのは、地域に多くの仲間ができたということで、男性女性通してそうです。

で、若い人たちはですね 10代 20代 30代あたりは、自分の人格形成や成長にプラスになった、或いは活動自体が楽しいと、というようなことが出てきています。

そして40代から70代、時期を働く世代というところでは、仲間ができた、そして、これのところでは健康でやれるというようなことが、自分にとって得られたものだというようなことがありました。

そうですね、地域活動ってさっき申し上げた通り、こういう社会的なものであったり、何かそういう、何か地域のためにと、入り方は、渋々であったりですね、そんなにすごくこう、自発的に関わったわけではないということがあったとしても、やってみたら、仲間ができた、よかったねと、というようなことが、とてもある。地域活動が私の今の活動に繋がってきたってということもですね、かなり自分にとって、自分の人生にとって意味があったことを、その活動の中から得られた、ということがあったからかなというふうに思っています。

なので、地域活動って、社会のためとか、誰か他の人のためというふうに、何か社会の、役に立てればとかそういう思いで始めたりとか、誰か他の人のために、地域の人のためというふうに始めたりもしますけれども、それだけではない。

むしろ自分に戻ってくるものがとてもあるんだよってということが、このあたりでも、データでも見られるし、実感としてもね、経験されたことがあると。

まあ一方では面倒くさかったりとかね、いいことばかりではない、ということはあるかと思えますけれども、こうやってこう、ずらっとこの回答ができているのを見てみるとですね、たくさんの方がですね、特に得たことや良かったことがないという方は本当に少数なんですよね。

なので、そういうことはゼロではないということもありますけれども、何らか自分の中に戻ってくるものがあるということがやはり地域活動の特色ではあるかなというふうに思います。

ということではですね、私が今思っていること、地域活動は次の私の扉、さっき申し上げたこのままどうなんだろう私、と思いつつ、やめるにやめられないわみたいな時からの次のとき、どうなったか、実はその思いがけない展開がありましたというのが私の地域活動でした。

市民活動でやっていた子育てサロンっていうのがですね、それは時代的なそのニーズなんかにも合

わけてですけども、税金を使う事業として、国も動いたし、私たちだけじゃなかったんですね、そういうことが、意味があるというふうに思っていたのは。なので、行政の委託事業に。私たちは1人の子育てからみんなの子育てへ、というスローガンを掲げて、仲間づくり、子育ての仲間づくり、井戸端会議などしてですね、べちゃくちゃおしゃべりしていたというくらいのことでしたが、子育ての居場所づくりという、ちゃんとした、言語化をしてですね、活動を継続していた。毎月1回でしたけど、必ず誰かがやってくる場所を作っているうちに、和光市でのこういう事業、行政の事業を受託するということになりました。

つまりですね、私の仕事は、ほんのちょっとボランティアじゃなくなって、地域に欠かすことのできないインフラになったという、いくつかの成果を自分で見ることができたということでした。

こんな感じでした。

これはもう今ね建物は建て替わって今は。やってることは同じですけども。当時の活動の様子です。

親子で集まって赤ちゃん連れてきてですね、ここでしゃべっていることが、今、子育ての孤立とか、言われているような、本当に今こそまた必要な時代になってきてますけれども、本当に子育て、初めての子供を育てていろんなことがわからない時に、誰かと会っておしゃべりするだけでも息抜きになったり、お互いの知恵を分かち合ってますね、そういうふうにやればいいのかとったりですね。うまくいかないことを話すと、私も私もってということがあったりして、ちょっとこう地域の人としゃべりすることです。

すっきりしたね、いろんなことができるような場を作った。場が地域の場所になった。

もう最初は地域活動、私たちのための活動だったんだけどって一つの扉が開いたっていう、私達にとっても画期的な出来事でした。

あと、ずっと場をやっていったら、場に出てくれない人のことを考えるようになって。また、その訪問型の支援をもうスタートっていう、先輩ママが、申し込んできた家族のところに行って一緒に訪問して何回か一緒に過ごすっていう、あんまり専門的な支援というよりは、本当に近所のおばちゃんの手助け

合いみたいな、私が地域、地域の繋がりでやってきたことですけど、地域の繋がりを、だんだんこう、今コミュニティが希薄になっていたりする中で、こういう形で少し意図的に作り直そうと思って始めた。みんなでこう考えて始めた。訪問型の子育て支援ですね、その写真です。これにも取り組むようになりました。

これは今申し上げたようなことですね。地域住民の支え合いの仕組みで、本当地域活動ですね。誰かが専門家としてというよりは、昔は当たり前にあったコミュニティ、まちの繋がりを、それと同じような昔には戻れないけど、今こそそういう地域の繋がりを作りましょう、というような考えで取り組み始めた事業ですが、こういった事業にも取り組んでみようっていう気持ちになりました。

これは最初はやっぱり、最初やっぱり、地域活動ボランティアですね私たちも、でもボランティアとか地域活動って地域を少し変えていくっていうことも何年もやってきて、少し感じていたので、こういうことに取り組むことはハードルは高かったですけれども、仲間もいたし、やりがいのあることだと感じていました。

それから地域の、こういう自然豊かな公園とかで、子供たちが好きに遊べるっていう、地域の児童公園なんかではね、すべり台とか、よく決まりきった整備された遊具があって、というような場所で遊ぶんじゃなくて、たくさんいろんなこう水が流れていたり木があつたりするようなところで自由に遊ぶっていう活動を、ぜひ地域の子供たち、我が子や子供たちにさせてやりたい。そういう地域でありたいということで、冒険遊び場プレーパークというのも、始めるようになりました。

これでも1人じゃできないけど、そんなことを考えている仲間が自然と集まってくるんですね、その前の子育て広場とか、子育ての居場所なんかやっていると。

だんだんそういうとこに集まってくる人たちと、次の活動、次の活動っていうふうに広がっていく、ということやってきていました。

2006年からやってですね。これも市の事業に展開した、ということでしたね。

なので、私たちが実践の継続で得たものは仲間や居場所、それから事業として、インフラになってい

くまちの、まちに欠かせない場所になっていくっていう、そういうことを評価されたり。

あと楽しかったこともあったけど、本当に大変なこともありました。もうやめたいと思うことも、ありました。

そんな時には、すごく仲間が支えてくれたり、その仲間を失うことは私の居場所を失うことでもあったということだったり、あとはここ私、一体何やってるんだっていうことを学んだり、言語化したりする中で自分が社会的に何をしているかっていうことに気が付いたり、そうしてそれは社会課題の解決だというふうに思ったりすると、知ったりするということも、私にとってはとても財産になりましたし、もちろん地域の人脈も得て、これが本当にいろんな循環、いい循環を、活動にとってはいい循環をもらったし、プライベートでもですね、地域の人脈っていうのは、自分のNPOだけじゃなくて自分の家族にもいろいろ戻ってくるのがあって、地域の活動ってそういうものがあるなあというふうに思いました。

もう私の場合は仕事にもなったわけで、そしてたくさん、一緒に思いを抱える、思いを持つ人たちまでやったり、ここがあってよかったとか、頑張ってた結果認められたりなどのやりがいも感じられていたというふうに思います。

そんなことというんですね、地域活動はもう、いろんな活動があるんですね。最初は、誰でも参加できる、誰でも参加できる活動なんだ、ということですね。そしていろんな活動がある、長い活動もあれば、単発の活動もあるし、いろんな活動があっても敷居が低いところから入るということも十分可能だと。

中にはだんだんこう、地域活動も、もう、地域活動というのはすごく濃い責任の重い仕事ということもありますけれども、やはりみんなが地域の人たちが助け合って、少しずつ力を出し合っているということという、時間とかですね、自分の能力とかも少しずつ出し合う、できるところから分担し合うというような、敷居の低い活動でもあるということがあると思います。

あと地域活動はさっき申し上げた通りですね。いろんな世代をつないでいきます。

テーマとか、やっていることに参加するいろんな人たちと繋がっていくということもあるし、人脈となっていくこともあるので、地域活動は本当に地域づくりだったり、まちづくりだったりする。

で、私自身はですね、どうか。最初は何となくでも、何となく入っても、だんだん私が何も考えないでやっているっていうことはですね、だんだん長くなってくるとね、自分がしんどくなるんですね。

なので、私は何をやってるんだろうとか、そういうことをもうどこそのためにはどうしたらいいんだろうとか。私の人生にとってこれは何だとか、何か考え始めてね。で、ここに、別にやってることが好きじゃないとか言いながらここにいる人たちが好きだとかですね。

やってることに非常に意味を見いだしたりとかですね、いろいろ人によっては違うと思いますけど、だんだん考えるんですね。自分にとってこの活動は何かとか、この場所は何とかかというようなことをね。

そういうことを考えていくと、だんだんこう意味を見い出せる、意味を見い出せるっていうことが面白いていうことだと思うんですけども、そこまでは時間がかかりますけれども、そこにハマったら面白いというような部分もあるかなあというふうに思います。

それが、私の、さっき調査で出てきた、私の居場所ができたとか仲間ができたとか、やりがいがあったとか、私にとって、何か御恩送り、昔お世話になった地域に私なりに今できることするんだっていう自分のテーマとか意味合いだったりとかですね、そういうようなことを見いだす場所でもある、という私にとっての意味のある場所、社会にとって、私が何か役に立ってる、社会にとって地域活動あってありがとう、っていう部分もありますけど、実は私にとっても、この活動があるからこそ私が立っていけるといような、両方の側面があるんじゃないかなあというふうに、今となっては思っています。

今まではですね、私のこれまでの経験についてお話しましたが、一つ私がすごく印象に残った活動の方々と一緒に学んだ経験がありまして、その時の話を少し紹介できればと思っています。

その方々はですね、さいたま市で市民活動を紹介する市民活動されている方々ですね。

その方々と、何を、何をあなたの活動はどんな活動で、なんでこの活動に関わってるんですかっていうのをみんなで言葉にしていくっていう。別にその学習というよりはですね、意味を生み出していくというような意味もありますし、私がやってんのはどういうことなんだろうっていうことを、ちょっとまた考える

っていう、そういうことをしたことがあるんですけども、その時のことですね、ちょっとこれがそのときの写真ですけども、これはエラベルサンという活動でさいたま市で活動されている団体さんですけど、仕事終わられてリタイアされたりした後に、何かこう活動を始めたいけれども、何をしたらいいんだろうって、よくわからない、どこに情報があるんだろうっていうのがよくわからない中で、いろいろな活動が地域にある。そこにマッチングをお手伝いしたり、その人のいろんな思いを伺ったりする相談活動のような活動をされていらっしゃいます。

そこにかかわられる皆さんですけども、皆さんが、皆さんの活動はどんな活動ですかっていうふうにご伺ったところ、老後に有意義に過ごすお手伝いをしてるんだというような方もいれば、何かやりたいと思う人に、何かそういうことについて一緒に考えていくと、それから何かこう、閉じこもりがちな人が外に出て孤立しないようにというようなことを考えてやっているんだ。と、いうようにそれぞれ、少しですね、活動についての思いがいろいろだったんですね。

なので、みんなにとって、同じように見えている活動も、地域活動って少しく人それぞれにとって、違う意味を見いだせていると、いうことがあるということに、その時に気が付きました。

そして、なぜあなた自身は活動してるんですかということを知ると、自分自身の生きがいのためとか、或いはその同じ年代の、私とか、自分と同じ年代の人たちが孤立していることについて何かできることがないか、というふうにご思っていたりとか、誰かがこう伸びていくの、成長していくのをサポートしたいっていうそういうことが自分にとってはとても、やりたいことなんだというようなこととかですね。

まあ、いろんな人と出会うのがとても楽しいし人の話を聞くということで、その人が、とても地域に繋がったっていうような思いがあればとても嬉しいとかですね、それぞれ自分自身のためっていうのもいろいろな意味を見いだされていました。

そんなふうですね、いろんな一つの活動でも、いろいろな意味やいろいろな動機があって、関わっていける活動が、地域には本当にたくさんあります。

そして、そういうことで出会って行って、自分なりの思いをですね、形にしていくような、前にまずはですね、何かちょっとチャレンジしてみたらいいんじゃないかなあというふうにご思っています。

今本当に、地域にはいろいろな場や活動があります。

今こんな時代ですね、子育てしている人たちもみんな共稼ぎだったり、働きながらという方もすごく増えてきます。

一方で、コロナでリモート、も増えてですね、通勤時間とかに少し余裕がある日もあるよっていう時が、地域の中で仕事していることもあるよっていう方もちょっと増えてきました。

なので、今、地域にね、目を向けてですね、何かこうできることにチャレンジしてみると、きっと自分の次の扉が見つかるんじゃないかなあと思っています。

ただ無理しないでね、できるタイミングで、したいこと、ちょっと関心が持てそうだなって思うようなことを探してみるっていうのも一つ、いいんじゃないかなというふうに思っています。

今私たちの周りにはいろいろな活動、ちょっと、思い当たるままに思いつくままに挙げてみました。

子供、子育て、教育、これは私のジャンルですけれども。私が始めた頃にはなかった子供食堂、子供の貧困の問題が、今の社会のニーズとして、出てきているので子供食堂っていうのがとても大きな、なうねりとして活動、特に埼玉県はね、子供食堂に大きく取り組んでいますけれども、子供の居場所ということで、そういった子供食堂プレーパーク学習支援みたいなことも、たくさんの地域活動の活動者に支えられています。

それだけじゃなくて、まち角に通学路を見守る人たち、それから子育て、私のように子育ての人が集まる場を運営されていたり、そしてヤングケアラーっていう言葉が最近聞かれますけれども、実は子供でも誰かのケアをしていて、1人でそれを抱え込んでいるというようなことが、今社会課題として、言葉になってて、共有されるようになってきましたけれども、そういう子供たちのことを気にかけて、そういう地域活動されていたりする方もあります。

それから、PTA、地域の学校応援団、コミュニティスクール、学校評議員など、学校関係のもの、こ

れも実はですね大きく様変わりしつつあります。

子供が少なくなってきたり、でも子供たちだけで学校運営ってなかなかやっぱり難しいんですよ。ね学校って。地域の協力がないとやっていけないけれども、昔みたいに親が総がかりでできるという時代ではなくなってきた。

なぜなら、みんな働くという人は、増えているから、その中で本当に地域と一緒に学校がやっていたいかなければ、学校が成り立たないという時代になってきて、学校の形態もコミュニティスクールであるとか、学校応援団、などの言葉で、地域の人たち、子供が、学校に今通っているわけではない地域のOBとか地域の人たちと一緒に学校のことを考えよう、というようなことが非常に盛んになってきています。

学校、実はですね、その次の災害っていうところがありますけど、東日本大震災の時も、実はあの地域の拠点だったことがすごくみんなの中で、見えてきたんですよ。

なので、学校は、学校に通っている家族だけのものではなくて、地域でやっぱり一緒にやっていくことも、とても地域にとっても意味があるということも、そういう背景に一つあるかと思います。

それから、福祉の部門では、障害のある方のための活動とか、貧困を支えるような活動も、それから介護ケアね、それから高齢者の問題、それからいろいろな当事者の、地域での支え合いの活動、一つでひきこもりのような支援みたいな活動もあるかと思います。

そういったことも、地域でありますし、復興支援のような活動、特に災害があった地域では、こういう活動が地域のとても重要な活動だったりします。

あと環境ですね。自然保護、リサイクル、まちの美化、ゴミ公害の問題、そして今は国際交流、多文化支援がとても、とてもだんだんまちの中に外国の方も増えてきたし、これまで一緒に考えるっていうことではなかったことがですね、多様な家族、多様な人たちがまちの中にいることに、すごくこう目が向けられるようになってきました。

この方々も一緒に地域活動に巻き込んだり、そういう人たちに日本語を教えたりとか、というような活動も昔から取り組まれていますけれども、特にお互い理解し合う国際交流の場面なんかも増えてきています。

それから、まちづくり。自治会、町内会、管理組合、まつり実行委員会、にぎわいづくり、いろいろな活動場所づくり、生きがいくくり、そして文化の継承、地域に伝わる、いろいろな文化を継承していくような活動、新たな芸術を起こして、まちをつくっていくような活動やそれから消費者問題ですね、いろいろな活動があります。

そして、産業の支援、農業とか移住促進とかですね、いろいろな活動が、もう現在も行われていますし、あと、これからはですね、ITとか、DX。いろいろなIT環境が整うと、みんなの生活が便利になっていく、よりコストがかからなくて、非常に便利に繋がっていけるということでは、DX化というのが今進められていますし、もうマイナンバーカードも、特に全員が取得して、それに基づく紐づくいろいろなDXのサービスで、暮らしやすくなっていく社会っていうのが、すぐ目の前に来ていますけれども、そういったようなことで、これからできてくる、また地域活動なんかもこれから出てくるんじゃないかなあというふうにはちょっと考えたりしています。

そういうことについて得意だよっていろいろな世代の人、もう、働きながらでもできるような自分のスキルを生かして。ITのデジタルデバインドっていうのは格差のことですね。デジタル、IT能力の格差についてサポートするとかですね、そういったようなことが、これから丁寧に必要になってくる時代に、いろんな地域活動、こういうことも必要になってくるんじゃないかなと思ってますけど。

まだまだ聞かないようなメタバースとかそういう話でもですね、あつという間にそういうことが、私達の地域にグッと入ってきたように、これからもどんどん変わっていくところでは、いろいろなスキルを生かしたプロフェッショナルが、地域の中にちょっと力を貸してくれるというような形での地域活動への参加の仕方も、これから大いに進められていくといいなと、進められていくんじゃないかなと思っています。

働きながらでもできるような地域活動の形にしていかないと、本当に地域には多種多様なニーズがあって、実は担い手が不足してきていると。そういう背景も実はあります。

なので、これからはですね、よりそういう地域活動への入口をサポートする入口についてみんなで考えていったり、情報を共有していく必要があるんじゃないかなと思っているところです。

では、そんな活動はどこで出会えるか、情報ゲットできるのはどこだろうというところで、見てみますとですね、皆さんの近所には市民活動支援センターとか、ボランティアセンター、それから生涯学習センター、公民館、地域センターなどの、いろいろな活動が集まっている拠点があります。

そういうところには大体情報が集まっていますし、コミュニティカフェなどね、民間の緩やかな繋がりで、少しくお金を使いながら、みんなでやっていくようないろいろな地域活動もあります。

そういったこともどんどん進んでいますし、あとウェブサイト SNS なんかでも、地域活動が広がっています。

そういうところでも情報を、関心のあるところから、ゲットできやすくなっているというふうに思っています。

あとですね、何かちょっとハードルが高いなっていう時は、友人・知人と一緒に何か引き受けてみるとか、ちょっと覗いてみるとか、或いは興味ある研修を受けたり、活動をちょっと覗いてみるのが入口になったり、まちイベントに参加してみると、自分が最初は参加者として参加しても、何かやれそうなこと面白そうなことに、出会えるかもしれないし、今、自分が本当に困っている活動とか、自分の中で、すごくこうテーマがあったらですね、そういうことを仲間を探して、まだない活動、似たような活動があるかもしれないけど、自分としてやりたい活動を始めるというのもありだと思います。

そんなふうに、地域にはね、いろいろ面白いことが転がっています。

最初出会いは面白いと思えない出会いだったりするかもしれないけれども、地域と出会うっていうところで、その媒体にね、活動があるということですね、ぜひ皆さんもいろいろな活動の情報ですね、ゲットしてもらえるといいかなというふうに思ってます。

あなたがこれからしたいことは、あなたの次の扉、あなたの扉はすぐ目の前にあるんじゃないかなというふうに思っています。

自分のためにも、そして社会のために、誰かのためにも、ちょっとしたやりがいを見つけて仲間を見つけて、楽しく、でも時にはやっぱ面倒だったり苦勞したりすることもあるかもしれないし、やることを、少しずつ変えたりすることも、変えていく、ずっと一つのことをやり続けるっていうだけじゃなくて、短いことに取り組むというような、いろいろな形ができるのが地域活動の良さですので、そういった地域活動、ちょっとした活動に、自分の意味を見つけて、社会の役に立って生きるとか、でもあまり無理はせずに、でも無理したいときはぐっとアクセルを吹かしたり、それも自分次第。でも、役割のある、少し責任を持つ生き方、そういう生き方をするということが、同じ活動にちょっと参加していくということ、面白い生き方を選ぶことにも繋がるんじゃないかなと思っています。

そんな、次地域活動、ぜひ、皆さんを、何か目の前にある活動、ちょっと見てみてですね、興味を持っていただいて、ぜひ何かこう、関心を持ったものに参加していただけたらいいなと思っています。

長くなりましたがこんなことで、今日の私の話を終えさせていただきたいと思います。

長い時間どうもありがとうございました。

以上す。